

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市戦災復興記念館
2	指定管理者	仙台ひとまち交流財団・東北共立グループ
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》  区分貸し施設 35,477人（前年度比102%） H28年度 34,809人 H27年度 39,698人 H26年度 25,263人  時間貸し施設 97,035人（前年度比98%） H28年度 98,834人 H27年度 105,974人 H26年度 77,884人  資料展示室 7,417人（前年度比97%） H28年度 7,665人 H27年度 10,292人 H26年度 7,044人</p> <p>《事業》  <b>【協力事業】</b>  「戦災復興展」  （平成29年7月1日～10日） 来場者2,092人 ※主催：仙台市  戦後72年が経過し、一般の関心も低いことが予想されたが、テレビや新聞などでも頻繁に取り上げられた結果、2,000人以上の入場があった。普段記念館に立ち寄らないような方も、期間中は多く来場していた。特に、若い世代に空襲や戦争と向き合ってもらおうという主旨の企画、仙台工業高校模型部による空襲体験の記録映像制作・上映を今年も引き続いて実施し、話題となった。同様に、宮城学院女子大学大平研究室の今年の発表テーマは防空壕で、主催者と一体となり、復興展を盛り上げた。4日間行った1階ロビーでの語り継ぐ会会員による体験発表・百束たき子氏による紙芝居発表では、毎回約30名以上の方が貴重な体験談に耳を傾けていた。また、語り継ぐ会会員による昔遊びのコーナーも好評で、すいとんの試食では、配食開始から30分後にはなくなるなど興味を持たれる方が大変多く、味に関していろいろ感想が聞かれ、景品が進呈されるクイズラリーでは若者だけではなく幅広い層の方が、昨年より難易度の高めの問題にチャレンジしていた。専門学校生と語り継ぐ会の懇話会は、若い世代へ戦争を語り継ぐ場として、大変貴重なものとなり、参加者のアンケートをとても有意義なものとして受け入れられたようだ。</p> <p><b>【主催事業】</b>  昨年引き続き榴ヶ岡市民センターとの共催で「平和のバトン」を今回も実施し、また、落合市民センターとの共催「地域住民への追憶・戦争の時代～広瀬村を語る」を実施した。  「出前講座（移動ミュージアム）」  全5箇所の小学校（愛子，広瀬，榴岡，錦ヶ丘，原町）1箇所の高校（宮城広瀬）  記念館の語り部ボランティアや各地域の市民センターが地域から募って養成した語り部ボランティアと一緒に、写真パネルや実物資料を持って、小学校、高校の授業に出向き“見て・聴いて・触って”学べる出前講座を実施した。</p> <p>「SMMA ミュージアムユニバース」  （平成29年12月16，17日）  歴史ミュージアムネットワークの事業としてSMMA（仙台宮城ミュージアムアライアンス）のイベント「ミュージアムユニバース」に参加。親子を対象としたクイズ大会を行い、好評であった。</p> <p>「出前講座活動パネル紹介」  出前講座の様子や資料展示室に来館する修学旅行生や県内外の校外学習の様子を撮影した写真をパネルに貼り出し、1階ロビーに展示した。</p> <p>文化芸術事業  「戦災復興記念館コンサート2018 春風の調べ～ピアノの音色とともに～」  （平成30年3月4日） 来場者数 245人 出演者数 9名  若手演奏家や市内音楽教室でピアノを学ぶ小中学生の発表の場と、春を迎える季節にピアノの優しく柔らかな音色を聴く機会を設けることを目的に開催した。</p> <p>「山田絵画教室 作品展」  当館で活動されている絵画教室にご協力いただき、仙台市内の風景画などの 絵画作品を展示しました。</p> <p>「季節の展示」  5月はこいのぼり、7月は七夕飾りとすず虫の飼育、12月はクリスマスツリー飾り、1月は仙台の伝統門松の設置、3月はつるし雛の展示など、季節に合った内容でお客様が集まるロビーに彩りを演出した。</p> <p>「舞台豆知識ボード バックナンバー展」  舞台芸術の振興を目的として、館内で定期的に発行・掲示していた、舞台や音響、照明に関するコラムのバックナンバーを拡大出力して展示した。</p>

4	施設の利用状況	<p>【地域連携事業】 「せんくら」プレイベント「街なかコンサート@戦災復興記念館」開催 平成29年9月22日（金）に2階記念ホールで、仙台市市民文化事業団と共催で、仙台クラシックフェスティバルのプレイベントとして、イベントの盛り上げとPR、地下鉄東西線沿線エリアの活性化と沿線市民の交流、せんくらアーティストと市民の交流・協働、地域の音楽振興を目的として開催した。 来場者数265名 出演者 池山由香（アルパ、メゾソプラノ奏者）、和久佳菜（仙台在住ピアニスト） 原町小学校「柿の木児童合唱団」、八木山児童館、七郷児童館（54名）</p> <p>「春日町マザーズチャイルドセンター 展示」 地域保育所の子どもたちが作成したクリスマス飾りを展示した。</p> <p>「(公財) 仙台ひと・まち交流財団子ども育成課 展示」 児童館フォーラムの各分科会でテーマ別のレポート掲示、展示。</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者に支払った費用 125,181千円 (123,124千円)</li> <li>・その他市が負担した費用 10,710千円 (9,596千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料収入 36,683千円 (34,366千円)</li> <li>・その他収入 730千円 (1,812千円)</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年2月1日から平成30年2月28日までの期間中、利用者アンケートを実施した。入室時にアンケート用紙を配布し、退館時に回収する方法で160部配布し、111部回収した。(回収率69%) 調査結果はホームページに掲載し公開するとともに、対応可能なものについては、順次改善に努めている。調査内容及び調査結果については、別添のとおりである。</li> <li>・鍵の貸出しの際に自由記述欄のある利用人数確認票を配布し、鍵の返却と一緒に回収しているが、具体的な要望等については、館内で分析し施設管理や窓口業務に反映させ、サービスの向上に努めている。</li> </ul>

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

	評価分野	所見	評価
I	総則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営上の基本方針が確立されており、職員が理解している。</li> <li>・施設の管理運営を通して、施設目的を達成している。</li> <li>・情報を守るための対策を行っている。</li> </ul>	S
II	施設の運営管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の勤務実績や配置状況も適切で、事業計画のとおり開館している。</li> <li>・指定管理料が適切に執行されている。</li> <li>・セキュリティ対策も実施している。</li> </ul>	S
III	施設・設備の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者のできる範囲において、概ね良好な建物・設備の管理、安全性の確保及び機能の保持、備品の管理、利用者が快適に利用できるような状態の保持、新・仙台環境行動計画に則った取組みの実施、外構の保守点検、清掃業務の適切な実施、利用者が快適に過ごせるような景観の保持がなされている。</li> </ul>	S
IV	サービスの質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用して気持ちのよい接客マナー・利用しやすい受付案内の実施・利用情報の提供と広報誌やPR誌の作成・格差が生じない施設サービス水準の確保・意見や苦情を抽出して対応するしくみや体制を整備して、寄せられた意見や苦情への適切な対応・利用者からの意見や課題がある場合への対応策を講じる等、適切な対応を実施している。</li> </ul>	S
V	施設固有の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民や組織、事業者と良好な関係を維持している。</li> <li>・仕様書に定める施設運営、施設管理、その他市長が必要と認める業務を適切に実施している。</li> <li>・指定管理者が提案した内容について実施している。</li> </ul>	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	取組み状況
1	
2	
3	

加点評価	—
------	---

### 四 評価総括

《指定管理者（仙台ひとまち交流財団・東北共立グループ）による自己評価》	
<p>東北に唯一の戦災復興施設である仙台市戦災復興記念館の指定管理者として、運営管理にあたっては、歴史資料施設・文化芸術施設・地域施設という施設の3つの特性を踏まえた次の各運営方針を掲げ、各種事業に取り組んでまいりました。</p> <p>①歴史資料施設として、戦災と復興の歴史を記録し、世代を超えて語り継いでいく拠点施設として運営します。            一般向けのパンフレットしかなかったため、榴ヶ岡市民センターと共催事業で「平和のバトン」のまとめとして、見学に訪れる子供たちや出前講座の児童向けに「戦中戦後のくらし」を作成し、分りやすく学んでもらえるようになりました。            県内外からの子供たちにも楽しみながら学んでもらえるよう、クイズラリーを実施し、宮城県のキャラクターを参加賞とし、既述の戦災復興展内では若い世代への語り継ぐ機会として、医療福祉専門学校が複数名、語り部として参加し、グループワーク形式での体験発表を実施しました。市民センターとの共催事業の実施も増えており、また、収蔵物の有効活用と施設のPRを図るため、ロビーを会場とした展示を行うとともに、市内歴史資料施設8施設で構成する歴史ミュージアムネットワークのスタンプラリーやミュージアムユニバース等の各種事業に参加しました。            このように、様々な主体による語り継ぐかたちの多様性の確保を目的に、各方面への情報発信や連携強化に努めました。</p> <p>②文化・芸術活動の促進を図る事業の実施や施設環境の向上に努めます。            既述のピアノコンサートの他、舞台芸術施設として、舞台技術をより身近に感じていただけるように、舞台まめ知識ボードのバックナンバー展をロビーにて開催しました。</p> <p>③大町・立町・肴町界隈の住民組織と共に地域コミュニティの発展に寄与します。            第1回「街なかコンサート」の開催や、花壇整備事業の他、震災対応を機により深まった地域とのつながりを基礎に、地域施設の指定管理者として、地元町内会の非常食や災害用品の預かりを受入れるなどした。</p> <p>その他、1階ロビーや収蔵物の有効活用として、時節柄にあった展示による味わいのある空間演出を行うことによって、来館した方がちょっとした時間でも楽しめるよう工夫いたしました。「毎回記念館を使うのが楽しみです」といった嬉しいお言葉も多く頂戴しております。このように、初めて訪れる方は勿論ですが、定期的にご利用いただいているお客様にもちょっとした変化を感じていただき、また耳を傾け対応できることには対応し、現状に満足することなくより良い施設を目指して職員一同努力しているところであります。</p> <p>開館から35年以上が経過し、施設の各所で経年劣化が進んでいますが、指定管理者としてお客様の要望にお応えするため、また利用しやすい安心安全な施設を維持管理するため、指定管理料内で出来る限りの対応をしております。また、戦後73年を迎えるにあたり、語り部の方々の高齢化や戦災に対する意識の低下を懸念しつつ、それらに対応するため様々な事業を模索展開していることは、戦災復興記念館の役割を果たすべく選定された指定管理者として、胸を張れるものと自己評価しております。この成果・実績を踏まえ、次期指定管理期間において、さらに各種事業の水準を高めるとともに、資料展示室の充実や記念館外での伝承事業の拡大、地域との連携協働、施設利用満足度の向上に一層励んでまいります。</p> <p>以上、平成29年度における戦災復興記念館の運営にあたっては、設置目的を踏まえた、歴史施設、文化施設、地域施設という施設の特性に応じた事業を展開し、指定管理者として責任ある管理運営ができたことと自己評価しています。</p>	
《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>戦災復興記念館という、他の文化施設には無い、特有の施設特性をよく理解し、他の公共施設との連携を図りながら事業を展開していることについて評価する。</p> <p>戦災復興展の企画展については、新しい資料の発見や、展示内容に新しい工夫を取り入れ、毎年同様の展示にならないように努力している点を評価する。</p> <p>平成29年からスタートした地域住民等を対象とした「街なかコンサート」や地域住民組織と合同での防災訓練等、地域コミュニティの発展に貢献している点を評価する。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：青葉区民部まちづくり推進課